

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0791100043		
法人名	有限会社タムラ		
事業所名	グループホーム はこべ南棟		
所在地	福島県田村市常葉町常葉字七日市場99番地		
自己評価作成日	平成27年03月28日	評価結果市町村受理日	平成27年6月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成27年4月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開所より早や2年が過ぎまして、少しずつ利用者様とスタッフの信頼関係も築けて居ると感じます。今年4月には、介護保険の改正が行われます。介護ケア、介護を必要とする高齢者様も増加する中、重要性も問われます。ハード面、ソフト面を備えて、利用者様、御家族様、地域の皆様と寄り添う介護を続けたいと、スタッフ一同心より思っております。利用者様の体調に気を配り、外出も多く出来れば幸いです。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1、利用者や地域のつながりを大切にし、地域住民や幼稚園との交流、ボランティアの受け入れが行われる他、事業所の夏祭りや避難訓練の際も地域から協力が得られる等地域との良好な関係が築かれている。  
 2、協力医療機関の院長が運営推進会議に参加するなど密接な関係が築かれ、定期的な訪問診療が行われている。また、利用者の状態に合わせ外来受診の支援も行われ、利用者が安心して医療が受けられるようになっている。  
 3、敷地が広く花畑や野菜畑があり、利用者が四季折々の花を楽しみ、野菜を収穫し食材に活かすなど、利用者が自然を感じながら生活できる環境となっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	項目
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価および外部評価結果

出来るように努めている。

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内隣接事業所と同じ理念を掲げている。事業所独自の理念について話し合いを行ったが、今の物が良いという事になり、改めて掲げている理念の認識を共有し深める事が出来た。	同一法人の他事業所と同じ理念で開所した。昨年の外部評価結果を踏まえ職員全員で見直しを検討したが、これまでの理念が地域密着を踏まえたものでふさわしいと継続が決まった。見直しの過程で、職員間の理解と共有が深まり、日頃のケアの中で実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋の避難訓練時には、同地区の方々にお知らせを配布して協力して頂いている。近隣の幼稚園より行事の招待を受け訪問している。その際お礼として利用者様が縫った雑巾をプレゼントした。	近隣幼稚園の行事に利用者が招待され園児と交流したり地域行事への参加をしている。避難訓練の際も地域の協力を得ている。また事業所主催の夏祭りは広報を行い地域住民の参加を得る。その他散歩や買い物の際に地域の人たちと挨拶を交わすなど日常的な交流も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から認知症の相談を受ける事があり認知症の理解や症状の対応など話すことがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催している。多方面の方々に協力して頂く事により、意見やアドバイスを頂き、サービス向上に生かせるように努めている。	運営推進会議は定期的開催されている。会議には協力医療機関の医師や行政の担当者、地域の住民の代表者等が毎回参加し、事業所の状況報告や消防署分署長、協力医などの講話も行われ、意見やアドバイスをいただき、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者、地域包括支援センターの方等と、日頃より連携が図れるように努め、こまめに情報交換を行っている。田村市介護相談員派遣の受け入れもあり、アドバイスを受けていたりしている。	行政担当者や地域包括支援センターの担当者、事業所の運営や介護制度面について相談したり、市から派遣された介護相談員と連携する等、市との協力関係を積極的に構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が、身体拘束について理解して、日常ケアの中に拘束になるような事が無いか確認している。夜間以外は施錠せず自由に入出りが出来ている。	身体拘束に関する外部研修への参加や事業所内での勉強会を通じて、身体拘束の具体的な行為に関する認識や身体拘束の及ぼす影響について理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。日中は、鍵をかけず職員の見守りで自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会で勉強会を行ったり、外部の研修会に参加して、日々のケアの確認を行っている。今後も研修や勉強会等で学び、日々のケアに繋げて行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ、制度について全職員の理解には至っていない。少しずつ理解していけるように勉強会に取り入れて行きたい。必要がある利用者様、家族様に対しては、制度の活用につなげて行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書を丁寧に説明して理解して頂いている。また、いつでも疑問があればその都度十分な説明を行い納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様には、電話、面会、カンファレンスの際等、意見や要望を伺っている。運営推進会議時は、運営状況や行事報告を行い、家族様の意見等も伺っている。	運営推進会議の委員に家族代表を加え意見をいただく機会を設けるとともに、家族の面会時やカンファレンスの際に、事業所の運営に関する意見や要望を聞くよう努めている。出された意見や要望については、「申し送りノート」や「個人ノート」に記録し職員間で共有し、運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会があり、代表、管理者が出席し、職員と意見交換をする場を持っている。意見や要望を運営に反映出来るよう努めている。管理者は日頃の業務内で職員の意見を聞くように努めている。	朝のミーティングや月1回開催する全体会、年1回の所長と職員との面談等を通じて、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。出された意見や提案を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションが日頃より図られており、いつでも相談出来るよう、信頼関係が出来ている。家庭の状況にも十分配慮し、働きやすい体制が出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は毎月1回行っている。少しずつではあるが外部での研修等に参加して認知症高齢者を理解してケアが出来るよう、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会は、少ない為、サービスの質を向上して行けるように、今後、機会を作れるように努めて行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ事前に情報収集を行い、その都度、本人と会話して、本人との信頼関係作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との話し合いの場を作り、相談しやすい環境を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分行い、カンファレンスの際、本人、家族様から意向を伺い、現状に合ったサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様がそれぞれ出来る事を、職員が一緒に行って信頼関係作りにも努めている。(洗濯物たたみ、掃除、おしぼり丸め、新聞たたみ等。)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様に電話、面会時等に、利用者様の状態をこまめに報告したり、家族の視点での気付けや、アドバイスを伺ったりすることにより、共に支えあう関係作りにも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの商店や美容室に職員と出かけ、地域の方と交流されている。	利用者本人が培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、知人との面会や電話連絡、手紙や年賀状の作成を支援するほか、馴染みの店での買い物や美容院の利用支援など、これまでの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で合う人、合わない人がいるため、常に見守り、声掛けを行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族が来所されたり、町内で会った際など話しをして、相談があれば応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスの際、毎回必ず、利用者・家族様の意向を伺ったり、利用者様の日常生活の中から本人の思いなど意識して気づくように努め、検討している。	日々の関わりの中で声をかけ、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方には、表情や行動、家族からの情報を基に本人の意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴などを、利用者・家族様から伺い、その生活歴を十分把握してサービス提供出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとり、生活ペースや健康管理、食事摂取量、排泄状況などの観察を行っている。精神面の観察や出来る事、また、困難になっている事の発見にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様個々の担当者を中心として、職員一人一人が利用者様のケア介護計画のあり方について気づいた事などを話し合い取り入れている。また、利用者・家族様の意向を伺いそれに沿った介護計画を作成している。	利用者を担当する職員が中心となり、日々の介護記録や「ケアプラン実施記録表」に基づき、毎月モニタリングを行い現状把握に努めている。またカンファレンスには家族も参加し、現状に即した介護計画となるよう定期的に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者様の介護記録、個人ノート、業務日誌等記入し、職員間での情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族様からニーズ、要望等があれば検討して、出来る限り、実現可能になるよう対応して行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様馴染みのお店(商店、理髪店等)の方々に、認知症を理解して頂き、協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に訪問診療を受けている。また、状態の変化が見られたり、緊急時などは、医師の指示にてスムーズに対処出来ている。	利用開始時に協力医を主治医としていただくことを家族に理解を得ている。協力医による定期的な訪問診療や利用者の状況に応じた通院介助を行っており、適切な医療が受けられるよう支援がなされている。受診に必要な情報や受診結果については、医療機関と家族と事業所で連携され、情報の共有が図られている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態等に変化が見られた時は、その都度、かかりつけ医院の看護師に報告して、対処のアドバイスや指示を受けて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とこまめに情報交換や相談等を行い、連携が図れるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、見取りに関する指針について、話し合いを行った。入居時、必要時、随時、本人、家族様に説明を行い、方針を共有して行きたい。	「重度化・看取りに関する指針」を作成されており、利用開始時や状態変化に応じて本人や家族と話し合いを行い、事業所での方針を説明している。運営推進会議の中で、協力医療機関の医師による看取りに関する勉強会を実施する等、地域の医療機関と連携し支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し全職員が対応出来るよう確認して、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署・地域住民の皆様の協力のもと、避難訓練を実施している。その都度意見、アドバイスを頂き、次回の訓練に活かしている。	消防署及び地域住民の協力のもと、年2回のサイクルで総合防災訓練が行われ、地域との協力体制が築かれている。訓練後は、課題や問題点を参加者で話し合い、それを次回への訓練に繋げている。食糧、防災ずきん等、非常時用の備蓄品の準備もされている。	災害発生の際には全職員が利用者を安全に避難誘導ができるよう、特に夜間想定を含めた訓練を実施して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で対応を確認して、各利用者様の自尊心やプライバシーに十分配慮して対応している。	併設されている事業所の全体会議で、利用者一人ひとりの人格を尊重した対応の仕方や言葉かけの大切さについて、勉強会を実施し、希望者に同性介助を行う等のプライバシーに配慮したケアに心がけている。記録は鍵の付いた書庫で保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がこまめに声掛けを行い、本人の思いを把握できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースに合わせ、レクリエーションなどに参加して頂いている。また、その時々希望に合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	口紅を自分でつけられる方や、髪型を気にされる方に声掛けし美容室に行くなど、希望に沿った支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	各利用者様から食べたい物の要望を伺い、メニューに反映している。また、食事時は、職員も一緒に食べて話をしながら楽しく過ごしている。	献立は利用者の希望を取り入れ決めており、食事の準備や後片付け等、利用者の各々の能力に応じ一緒にやっている。事業所のビニールハウスで育てたトマトやニラ等を食材に利用している。職員と会話をしながら和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。季節の行事食や外食等の楽しみもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様個々の食事・水分摂取状況を毎日記録し把握している。水分摂取量が少ない利用者様には飲み物を工夫したりして、声掛けしながら摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様一人一人に声掛けし、口腔ケアを実施している。出来ない所を職員が介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人の排泄状況を把握し、トイレ誘導を行っている。早めの声掛けで失禁を減らすよう努めている。	排泄チェックにより個々の排泄パターンを把握し、タイミングを見計らって声かけを行い、出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。利用者の気持ちを汲み取り、自立に向けた援助に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様一人一人の排便のペースを把握し、食事の内容、水分摂取量に配慮している。また、運動を促したり、お腹のマッサージを行ったりして便秘にならないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望や体調に合わせて入浴して頂いているが、拒否される方には、時間を置いたり、職員を変えて再度声掛けしている。入浴出来ない時は手浴、足浴を行っている。	特に入浴日を設定せず、その日の希望や体調に応じて、週2回入浴できるよう支援している。また、ゆったり入浴できるように菖蒲湯やゆず湯や入浴剤を利用している。入浴を拒否される方には、職員や時間を変えて声かけすることで、スムーズな入浴支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペースで居室やホール等で過ごして頂いている。その際、安心して過ごして頂けるように見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の説明書は、個人ファイルで管理して一人一人の状況を把握して、十分理解をするように努めている。変更後は、申し送りをして様子観察を行い注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お花の手入れをしたり、町内の文化祭の作品作りを全員で行ったりした。また、行事計画を立てて、外出したり、外食をしたりした。楽しみ作りに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候や身体状況に合わせ、利用者様に声掛けを行い、外気浴や事業所近隣の散歩等を行っている。また、外出時馴染みのお店や地域のお店の方と交流している。	日常的に天気の良い日は、散歩や外気浴を行っている。利用者の要望を伺い、町内の店舗へ買い物や外食に出かけている。また、季節毎に花見や紅葉狩りに出かけるなど、利用者の気分転換を図っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方と相談して所持されている方も居る。買い物の希望があれば付き添い支払いの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、いつでも使えるようになっており、自ら希望され電話する事もあったり、手紙や年賀状の返事を職員と一緒に書かれたりした。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾りつけをしたり、毎月の行事を見やすい所に掲示している。また、季節感を感じられるように配慮して飾りつけを行っている。	共有のフロアは、利用者と一緒に作成した季節感のある作品や行事写真等が、利用者目線で展示されている。温度や湿度の管理は、利用者を確認しながら適切に行われ、居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時は、居室に戻って独りの時間を過ごされている。また、気の合った利用者様同士で、ホールやソファにて寛いでおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	利用者様一人一人が安心して過ごして頂けるよう、その都度使い慣れた物や馴染みの物を家族の方に持って来て頂いている。ひ孫さんの写真や絵を飾られている方もいる。	居室には木製の名札が下げられており、利用者が居室を間違えることのないよう配慮されている。また、各々の居室には、馴染みの寝具や時計、記念写真等が持ち込まれている。利用者の要望により、畳敷きの対応も行っており、利用者や家族と相談し、部屋のレイアウトを決めている。できる範囲で利用者と一緒に掃除を行い、気持ちよく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場には、わかりやすいように目印を付けている。時計やカレンダー等見やすい物をつけている。		